

広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（*③企08）

『東京文化財研究所年報』『東京文化財研究所概要』『東文研ニュース』の刊行は、広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（③企08）の一環として実施した。詳細は、59頁を参照。

平成23年版日本美術年鑑 刊行事業・出版事業「美術研究」（調査・研究成果の公開）（⑥企09-12-2/5）

『日本美術年鑑』

日本美術年鑑は、わが国の各年の美術活動と美術研究・批評の状況を記録した刊行物である。企画情報部では当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所が1936（昭和11）年から始めた『日本美術年鑑』の編集を引き継ぎ、刊行を継続してきた。平成23年版は、B5判455ページとなった。出版に際し、東京美術商協同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。

研究組織

○田中淳、山梨絵美子、塩谷純、綿田稔、小林達朗、皿井舞、河合大介（以上、企画情報部）、江村知子（文化遺産国際協力センター）

『美術研究』

1932（昭和7）年1月、当所の前身である帝国美術院附属美術研究所の初代所長・矢代幸雄の提唱により第1号を刊行。以来、約80年にわたり、日本・東アジアの古美術ならびに日本の近代・現代美術とこれらに関する西洋美術についての論文・図版解説・研究ノート・書評・展覧会評・研究資料を掲載している。年3冊刊行。本年度は407号、408号、409号を刊行した。出版に際し、東京美術商協同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。

無形文化遺産部出版関係事業（⑥無04-12-2/5）

『無形文化遺産研究報告』

無形文化財や無形民俗文化財、文化財保存技術に関する研究論文、調査報告、資料紹介等を掲載している。

『無形民俗文化財研究協議会報告書』

無形文化遺産部では毎年テーマを定め、保存会関係者・行政担当者・研究者などが一堂に会して無形の民俗文化財の保護と継承について研究協議する会を開催している。第7回にあたる本年度は「記憶・記録を伝承する—災害と無形の民俗文化」をテーマとして開催し、その報告・総合討議の内容などをまとめて報告書として刊行した。

